

## 2015年度第2四半期決算説明会 質疑応答

【開催日】 2015年11月10日（火）15:30～17:10

【出席者】 代表取締役社長 : 小林 健  
常務執行役員 CFO : 内野 州馬  
執行役員 主計部長 : 増 一行  
IR 部長 : 武久 裕

### 【質疑応答】

① 株主還元関連（自社株買い、配当等）

**Q. 今期減配を判断した背景。**

- A. ● 現中経の配当方針に基づいたもの。  
● 50円は安定配当と位置付けており、万一通期の業績が更に下振れても、50円は維持する。

**Q. 今後も継続して自社株買いは実施するのか。**

- A. ● 「経営戦略2015」で成長イメージとともに掲げたROE水準の回復に向けて、利益成長だけでなく、分母である資本の最適化も視野に入れている。  
● 年度末の投資ポジションや資金ポジション等を総合的に勘案して判断する。

② 投資計画／資産入替

**Q. 今年度の投資金額はどの程度を見込んでいるか。**

- A. ● 今年度の投資は上期偏重となっているが、中経3カ年の投資計画に沿って、3年累計で2.5兆円程度を想定している。  
● 中経期間3年間累計でFCF黒字の目途は立っている。

**Q. 資源価格が低迷する中、今後の資源ビジネスの方向性はどのようになるのか？**

- A. ● 2020年頃の目標に向けて優良投資を継続する方針に変更は無いが、「経営戦略2015」を策定した時点と比べると外部環境は変化してきている為、資源ビジネスの中長期的な事業環境を見極め、これまで以上に厳選して投資を検討していく。その結果、成長に向けたマイルストーンの見直しを行うことも有り得る。

**Q. ポートフォリオの入替えの状況について教えてもらいたい。**

- A. ● 利益規模・成長性・戦略性・リスクリターン観点から、相対的に優位性の低いノンコア事業を中心に着実に入れ替えを進めた結果、当初47あった事業領域を39まで絞り込んでいる。

**Q. 総資産 16 兆円に対して、資産効率が低下しているが、今後どのように向上させていくのか。**

- A. ● 資源価格低迷の影響を受けている資源ビジネスは勿論のこと、堅調に利益を計上している非資源ビジネスにおいても資産効率を更に向上させるべく方策を検討している。

**Q. 資源の聖域なきポートフォリオの入替えの考え方。**

- A. ● コア資源であっても、例外なく見直すということ。

### ③ 業績関連

**Q. 今期の業績下方修正を受けて、2020 年頃に向けての方針に変更はあるか。**

- A. ● 2020 年頃の目標に向けて優良投資を継続する方針に変更は無いが、「経営戦略 2015」を策定した時点と比べると外部環境は変化してきているため、資源ビジネスの中長期的な事業環境を見極め、これまで以上に厳選して投資を検討していく。
- 一方、非資源ビジネスは収益倍増目標に向けて順調に進捗している。

### ④ 個別案件関連

**Q. MDP は赤字を計上しているが、減産しないのか。**

- A. ● 原料炭事業は、2020 年頃の目標持分生産量 40 百万トンを目指し、現時点で約 32 百万トン。
- 何れも優良資産を保有しており、今後もコスト削減と生産性向上の施策に取り組むと共に、拡張プロジェクトの実行により、資産価値の最大化を図っていく。
- MDP は、開山した新規炭鉱等の開発投資の償却費負担もあって赤字となっているが、キャッシュ・フロー上は黒字を維持しており、減産に踏み切る状況ではない。

以 上